

令和7年度 倉吉市社会教育委員協議会臨時会について（概要）

- 1 日 時 令和7年7月24日（木）10時～12時10分
- 2 場 所 市役所本庁舎 大会議室
- 3 出席者 委 員：岩垣会長、長岡副会長、眞田委員、山下委員、前田委員、樽井委員、鷺見委員、笠見委員、枡田委員（欠席：井上委員、小椋委員、岸田委員、黒川委員）
事務局：中田教育長、石賀事務局長、井谷社会教育課長、根鈴博物館長、田村図書館長、社会教育課：山崎課長補佐・多久和係長
関係課：田村地域づくり支援課長

4 協議事項

（1）第4期倉吉市教育振興基本計画策定に向けて（グループ協議）

○経過説明(岩垣会長)

- ・令和6年度の社会教育委員協議会で会長・副会長に託された、コロナ後における社会教育が抱える諸課題についての「話し合いの場」の持ち方について、会長、副会長、事務局で協議し、第1段階として社会教育委員で話し合うこととした。第2段階として、社会教育に関係する学校教育、行政等の関係者に出席してもらい第1段階の会議の内容を踏まえた話し合いをしていくこととした。
- ・今年度は第4期倉吉市教育振興基本計画策定年度であることから、今回の話し合いの柱として計画の教育目標に関連づけながら社会教育に関わる現状課題と解決策について意見を出し、第4期計画策定に資する会ともする。

○A、B、Cの3つのグループに分かれて協議・発表を行った。

[主な発表内容]

【Aグループ】

○現状と課題

- ・人口減少、高齢化、世代間の意識の格差がコロナ禍によって拍車がかかり、地域の行事やイベントが消滅してしまった。公民館の役員もやる人がなくなってきた。
- ・地域で、年配者がいると若い人は意見を言いづらい。一方、若い人も(地域活動に)出てこない。
- ・文化財関係は、教育委員会、市長部局の連携、社会教育とのつながりができているか心配。
- ・地域の行事、講座への参加者の固定化、それによる歴史・文化を広く知ってもらう機会の狭小化。
- ・情報発信がどの関わりでも一番大事。発信の仕方がカギ。また、宣伝するだけではなく教育も大事。
- ・行政のいろいろな担当部局で連携して共に考えてくれる人材が必要。
- ・体験をすることをもち大切だがどう考えていったらいいのか。

○解決策

- ・諦めずに発信していく、いろんなところでアンテナを張る。
- ・個々ではなく、行政、住民、一緒に話し合って進めていく。
- ・情報発信と仲間づくり。仲間で活動すると情報が集まる。
- ・行政が情報発信し、施策等を住民と一緒に考えてもらうこと。

【Bグループ】

○現状と課題

- ・PTAの活動の減少。役員のなり手不足。
- ・コミュニティセンター事業の参加者の固定化や高齢化。
- ・住民、子どもたちの居場所づくり。
- ・博物館の活性化、図書館ももっとリラックスできる場所に。住民の声が活かされていない。
- ・コミュニティセンターの役割の周知と啓発が必要。
- ・いろいろな活動が減ってつながりが減ってきた。
- ・コミュニケーション能力の低下。コロナ禍で子どもも大人も低下している。
- ・地域の中で若い人が変えたいと思うことがあっても、否定されるというような状態がある。

○解決策

- ・行政が市民の声を丁寧に拾う。市民のつながりづくりに協力する。
- ・コミュニティセンターにおける若い人たちの仲間づくり、各世代のリーダー育成、仲間づくり。
- ・学校がもっとオープンになり地域住民が入りやすくする。（地域の大人との関わりから子どもの問題の解決につながる可能性）
- ・コミュニティセンター事業でも垣根を作らず小規模でもみんなで楽しめる事業に取り組む。

【Cグループ】

○現状と課題

- ・コミュニティセンター活動に参画する30～50歳代の大人が少ない。
- ・学校統合は少人数学級でもやっていけるのではないかな。
- ・子どもの体力低下。生活の乱れや夜更かしからの学力低下が心配。
- ・子どもが大人と関わる機会が少ない。コミュニケーション不足。互いにつながる意識の低下。
- ・オンライン環境の台頭によるコミュニケーション能力の低下。関係性が希薄な中での信頼獲得の不足。
- ・地域活動の参加を任意と捉える30～40代が多い。「参加しなくてもいいのでは」という人がいる。

○解決策

- ・世代のつながりや世代を超えたつながりづくり
- ・ボランティア活動への移動手段の確保（集まりにくい人への支援）。
（例）積極的にボランティア活動を行う小・中学生を行政の補助で送迎をしている自治体あり
- ・地域を越えた人の参加・参画をしてもらう。学生の参加があると元気が出る。みんなで考える。
- ・地域の魅力をもう一度考え直すために普段できない体験をする。⇒人が集まる⇒つながりができる。
毎年同じことをすることも大切。
- ・対面の会議をできるだけする。
- ・青少年の育成、次世代の担い手づくり。
- ・地域を支えていく自治公民館の活性化。
- ・コミュニティセンターは、つながりをつくるという共通意識をもって事業計画や運営をしていく。
- ・裾野を拡げる事業と並行してピンポイントのリーダー養成をする。
- ・キーパーソンを中心としたまちづくりをする。

【まとめ】

- ・すべてグループに共通して出た課題は、人口減少、高齢化、連携不足、つながりが減少している、いろいろなことが少し停滞気味、ということ。
- ・具体的なイベントの機会が足りてない、子育て世代、若者、子どもたちの意見が反映されていない。
- ・その解決策の共通点は、キーワードとしては「つながり」。課題でも解決策でも「つながりづくり」が挙げられていた。
- ・もうひとつのキーワードは「人材育成」。人材を育成したり、リーダーを育てていく、または、リーダーを発掘しそれを中心にいろいろなことを進めていこうということがどのグループも挙がっていた。
- ・具体的な内容として、Aグループの、情報発信の部分でもっといろいろな発信があるのではないか、その発信は単なる宣伝だけではなく教育も込みでやっていく必要がある。例えば、情報発信は、何かを体験する機会が情報を得る手段になる。様々な手段、様々なチャンネルで情報発信をして、集団で一緒に考えることが大事。これは「つながりづくり」にも関係する。
- ・Bグループで出た、意見を出すときに丁寧にそれぞれの意見を聞き取る機会が必要。子どもたちであろうが誰であろうが、その意見をきちんと尊重する体制も重要。
- ・具体的な案としては、Cグループで出た、ボランティア活動に参加するときの移動手段の話で、若者が活動に参加するとき助成があると参加しやすいのではないかという事例。事例を参考にする。
- ・「つながりづくり」、「人材養成(育成)」を進めながら、取り組みを具体的にどう発信していくのかということと一緒に考えていく、さらに子どもたちが参加しやすいような具体的な手段を考えていく。
- ・「つながり」をつくるためにも、部署の垣根を越えられることができるような仕組みづくりを、できるところから進めていく。

5 連絡事項

(1) 各種大会等について(案内・参加のお願い)

- ・令和7年度鳥取県社会教育振興大会(兼鳥取県社会教育委員研修会)
- ・第47回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会
- ・令和7年度倉吉市生涯学習講座

6 閉会